

僕・私の将来の夢 心の発達 ー 要支援児童・生徒が学びの設計図を作る

背景、その必要性

・日本の成人のひきこもり人口は約70万人である。人材の損失と共に、老いた両親にとっても悩みの種である。少子化の日本において、引きこもりを少なくすることが国策となっている。

・就業したもののコミュニケーションがとりづらく、失職したことが多い。児童・生徒のとき、選択した進路・職業が適正でなかった結果と考えられる。

・発達障害児・生徒は特定の分野で高い能力を持っており、人とのコミュニケーションよりも機械などに興味をもつ個性がある。

・特定の職業・分野が向いており、早めに自分の性格、個性にあった学びの設計図を作り、体験活動をするとうい。

・しかし、これまで、健常児・生徒のプログラムはあるが、発達障害児・生徒を対象とした進路指導の具体的なプログラムはほとんどない。

教材の利用分野における特色

・市場性：コロナウイルス感染拡大、共生時代、全国の取り残されるころの発達、要支援児童・生徒、父兄が、eラーニング教材として活用できる。普通学級にも相当の要支援児童・生徒がいる。

・新規性：健常児・生徒においては、多くの学びの設計図の作り方があるが、発達障害児・生徒を対象とした教材は初めてである。50分野において、適正の職業、分野について研究者、プログラマーをモデルとして提示する。追加すべき体験活動の示唆が得られる。

・優位性：学びの設計図の構成は、起承転結でなく、小論文にも使えるように学术论文に類似した形式で統一されている。50分野のオンリーワンの学びの設計図ができる。

教材の成果、目標

・発達障害児・生徒（小、中、高）、どんな学年、程度であっても、自分のオンリーワンの具体的な学びの設計図をつくることことができる。

・自分の性格（コミュニケーション能力の欠如）、個性、特別な能力を発見し、自分の興味にある、可能な職業を50分野の中から選択できる。

・本プログラムを利用した発達障害児・生徒が、進路、進学に成功し、自分の個性にあった職業により社会活動ができる。ひきこもりを生まない。

・充実した目標を達成するためには、各分野毎の更なる体験活動、課題解決活動、読むべき図書を知ることができる。

教材の内容

①心の発達、要支援児童・生徒が自分で、また親子で自己の性格、個性に向いている50の職業、分野毎にそのなかから選択し、学びの設計図をつくれる。

②学力と適性を重視したい人は決めた分野で、50分野毎の具体的大学進学 of 学びの設計図を示している。

③学力よりも適性を重視したい人は、50分野から、決めた分野で専門学校進学 of 学びの設計図を示している。

④要支援児童・生徒が、現状を更にスキルアップするため、各分野毎に体験活動、参考図書などを示している。